

# 技術・家庭科学習指導案

学 校： 瑞穂市立穂積北中学校

場 所： 被服室（北舎2階）

学 級： 3年4組

授業者： 杉山 智子

## 1 題材名

家庭分野 A 家族・家庭と子どもの成長 「地域の中で生きる私」

## 2 題材のとらえ

日本は、1995年に高齢社会、2010年には超高齢化社会へと突入した。今後も高齢者率は高くなると予測されており、2025年には人口の約30%が高齢者になると予測されている。このような超高齢化社会には、様々な問題をはらんでいるが、その一つとして高齢者の孤独化がある。現在の日本は核家族化が進み、単独世帯、夫婦のみの世帯、夫婦ともに65歳以上の世帯などが増加しているのが現状である。地域住民同士のつながりの希薄化、コミュニティーが弱体化し、孤立する方が多く見受けられるようになり、孤独死の問題などが出てきている。こういった問題を解決していくためには、地域社会全体で超高齢社会を支えていく必要がある。このような状況の中、中学生の自分は支えられるだけでなく、家族や地域の一員として支える側になり、高齢者など地域の人々と協働する必要がある。そのためこのようなことを学ぶことは、地域に生きる一員として自覚をもとうとしているこの時期に、大切な学習であると考えられる。

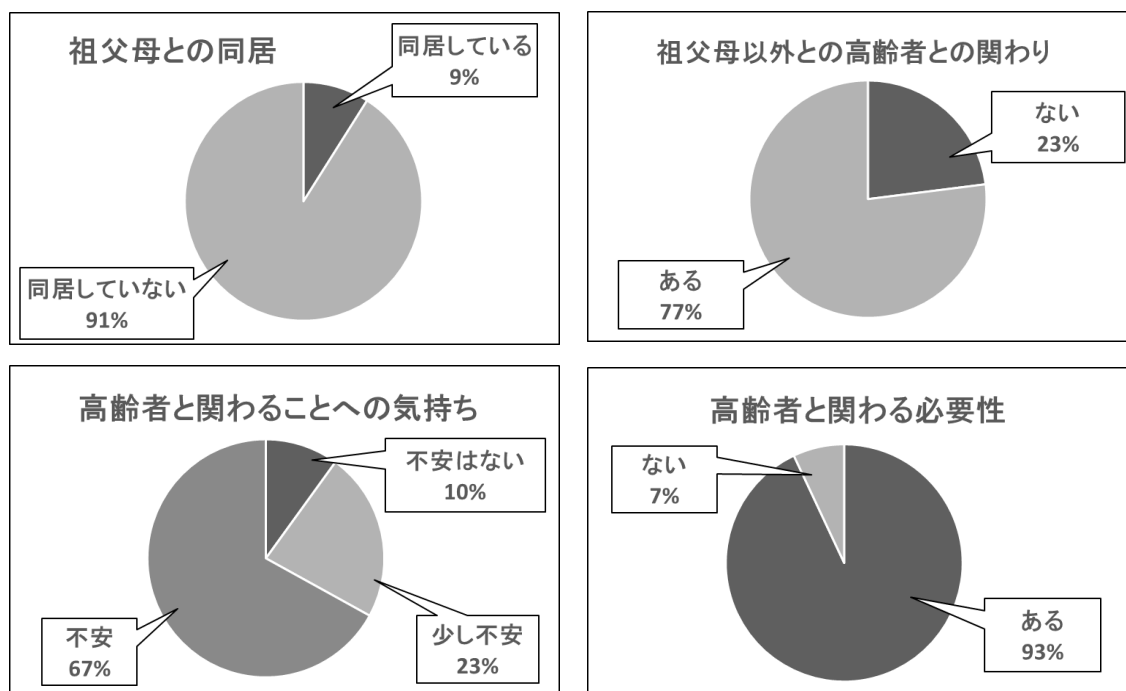
本題材では、少子高齢社会の進展に対応して、幼児との触れ合い活動に加えて、高齢者など地域の人々と協働することの重要性に気付かせていく。そのため、新たに高齢者について取り扱う。本題材では、家族・家庭と子どもの成長の学習のまとめとして、自分と家族、家庭生活と地域の関わりを見つめ直し、地域の一員として家族や地域の人々と協働して生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育てる。他者を支え育てる立場になって幼児との接し方を学んできたことに加え、高齢者を含む地域の人々と協働することを学習することで、地域に生きる一員としての自覚がさらに高まるのではないかと考える。中学生の自分が、地域の一員としてどのようにすれば高齢者などの地域の人々とよりよく関わり協働することができるか、また、自分にできることは何かを考えようとする意欲的な態度を育てたい。

## 3 本時の指導

本時は、地域行事の一つである祭りの準備から販売までを、地域の高齢者と一緒に行うといった場面を想定して、役割分担やロールプレイングを行う。前時までには高齢者の生活や身体的特徴について学んでいるため、高齢者への負担をできるだけ減らそうと配慮した役割分担になることが予想される。生徒らは、高齢者と関わった経験が少なく、高齢者への理解が浅いため、幼児以上に個人差があることを十分理解しにくい。そのため、高齢者をひとくくりにして、全ての人に高齢者の身体的特徴が表れていると考えてしまいがちである。そこで、ゲストティーチャーから高齢者の思いを聞き、協力・協働することの大切さに気付かせたい。ロールプレイングのシナリオを交流することで、自分にはない工夫に気付くことができると考える。また、ゲストティーチャーの話を通して、シナリオを色ペンで修正することで、自分の考えの変化が分かるようにして、学びを実感できるようにする。ゲストティーチャーにロールプレイングを評価してもらうことを通して、生活とのつながりを実感し、他の場面での高齢者との関わり方も考えさせたい。

#### 4 生徒の実態

本題材の当初に行ったアンケートでは、生徒の地域での活動について、高齢者との関わりや高齢者への思いについて、以下のような結果を得た。



##### <高齢者へのイメージ>

- ・知識が豊富
- ・丁寧な言葉遣い
- ・おだやか
- ・畑仕事をがんばっている
- ・よくしゃべる

- ・体力が落ちてくる、ゆっくりになる
- ・足腰が不自由、腰が曲がる、杖が必要
- ・目が悪いからメガネ、耳が遠い
- ・介護が必要
- ・車の運転が危険
- ・白髪、しわが増える…など

小学校での活動や地域活動などのさまざまな場面で高齢者と関わることはあるが、本校の校区内においても核家族化が進んでおり、祖父母との同居者は9%と少ない。そのため、高齢者との関わる機会は少なく、高齢者への理解は浅いと思われる。これからの超高齢化社会を生きる地域の一員として、高齢者との関わる必要性はあるとほとんどの生徒は考えているが、理解が浅いため、関わりには不安を感じている生徒も多い。また、高齢者へのイメージはマイナス的なイメージが多く、どのように関わったらよいか分からず不安を感じているのではないかと考えた。そこで、本時は祭りでの役割分担や仕事のロールプレイングを通して、高齢者との関わり方を具体的な場面を想定して考え、高齢者の実態をより理解させたい。さらに、ゲストティーチャーから学んだり、関わり方を工夫し交流したりすることで、高齢者との接し方に自信を付けさせたい。自信が付くことで、地域社会の一員として、地域行事などでも高齢者と積極的に関わろうとする姿につなげていきたい。

#### 5 研究主題との関わり

##### (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する単位時間の学習過程の工夫

###### ① 見方・考え方を働かせるための工夫

家族・家庭生活における生活の営みに係る見方・考え方の重点は、「協力・協働」である。生活に関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解する必要がある。

そのために、本時ではより実践的に学ぶために、本校の校区で行われている祭りでの地域の人との関わり方について考えられるように場面を設定した。校区で行われる祭りへは、半数以上の生徒が準備から参加しているため、協働するというイメージが掴みやすいのではないかと考えた。

## **②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学び方の工夫**

主体的な学びにするために、上記で示したような場面設定の工夫をした。そうすることで、自分と結び付けやすくなり、今の自分やこれからの自分とつなげられるのではないかと考えた。また、他の様々な地域活動ともつなげて考えさせることで、新たな課題を見つけ、解決していこうとする態度を育てていきたい。

対話的な学びについては、ロールプレイングを効果的に取り入れ、他者との対話を通して自己の考えを広げ、深めさせたい。本時では、祭りの準備から販売までの活動の役割分担や、ロールプレイングを通して、高齢者の立場になって間接的に他者との関わり方を学べるような工夫をした。深い学びについては、ゲストティーチャーからの話から、自分たちが気付けなかった新たな課題を見出し、解決策を考えられるようにした。